

## 実務者検討委員会 有志会合での意見のまとめ

令和元年度は、委員有志による有志会合をこれまでに2回開催し（令和元年6月12日、7月19日）、それぞれ、12名、17名が参加した（議論の概要はメールにて配布済み）。

主な意見は以下のとおり。

## 1 ジャパンサーチ正式版公開時に向けて

- ジャパンサーチの広報強化及び利活用促進策が必要。SEO対策の強化、開発者向けイベントの実施、記者レク、学校での調べ学習・プログラミング利用、アーバンデータチャレンジ等のウェビナー参加、ギャラリーの一般公募型コンテスト（自由研究コンテスト）等が考えられる。
- 利活用を進めるには、ユーザのレベルや職種に応じたガイドブックが必要。
- 小規模館との連携の進め方について、数が少なくてもよいので質のよいデータを確保しつつ、上手な連携と活用事例を積み重ねていくことが重要。
- オープンデータ伝道師のように、小規模館に誰かが派遣されてきめ細やかなフォローができる体制を作れるとよい。Europeanaの地域・小規模館アグリゲータプロジェクトなどのようなことができるとよい。
- Googleアナリティクスを共有してほしい。  
← 実務者検討委員会構成員（希望者）と共有することとし、メールにて募集した。

## 2 ギャラリーの拡大について

- 博物館等では、企画展の図録等や常設展の入れ替えの情報を使ってギャラリーを作れるのではないか。
- 有名人のキラーコンテンツは、複数人を集めて行う形がよい。
- ドラマ等、時代考証に使われた資料を「ギャラリー」で紹介できるとよい。
- 渡邊研究室の学生に使わせたい。  
← ジャパンサーチに組織登録し、ギャラリーを作成してもらうこととなり、7月16日に公開した<sup>1</sup>。

## 3 ジャパンサーチの連携候補について

- 当面の間、国の機関との連携を優先することとし、地域アーカイブについては、都道府県レベルのアーカイブのうち、複数の分野・機関を含むものの連携を優先して進めることがよい。
- ジャパンサーチの「コレクションポリシー」を明確にした方がよい。

---

<sup>1</sup>[https://jpsearch.go.jp/curation/w\\_lab2019.js-qAZ2qnmY9xA](https://jpsearch.go.jp/curation/w_lab2019.js-qAZ2qnmY9xA)